

新着図書紹介



A5判 368ページ
定価 2,500円
東洋選書

東京の桐朋中学・高校の地理教諭を三十年以上にわたって務め、在職中から多くの本を執筆してきた著者・大沼一雄氏は、フリーとなった現在も、地図と旅の執筆活動に専念する、地図の専門家である。そのプロフェッショナルによると、最近「読図」という言葉が地図好きの人々の間でよく口にされるという。

「ここ数年は、NHKで放送された『プラタモリ』という番組が人気を集めてきたこともあり、古地図を持って街歩きをするのが趣味というタモリによる玄人はだしの造詣を通じて、「地図から読み解く町の変貌と、時空を超えて発見される歴史の断層面」の面白さも、広く知られるようになってはすだ。日本地理学会は二〇一〇年度に、「地理学的にも最も優れた番組」と評価して、NHKの制作チームに二〇一〇年度日本地理学会賞(団体貢献部門)を授与しており、その理由として「広い意味での地理教育の場としても非常に高く評価されよう」と説明、「会員に対して地理教育へ

のヒントを与えるものになるであろう」と指摘している。

「地図から読み解く町の変貌と、時空を超えて発見される歴史の断層面」を知ることの魅力を早くから訴えてきた著者は、「読図は、いわば旅の起爆剤なのだ」とも強調する。

地図の見方に慣れてくると、地形の特色だけでなく、そこに暮らす人々の日常生活までも自然と目の前に浮かんでくるようになるという。

「その地図に描かれている場所に自分も出かけてみたくなる」著者は、旅に出かける前に読図に専念することを勧め、「そうすればあなたの旅は二倍にも三倍にも増幅され、楽しいものになるはずだ」と記している。

『新々・日本列島地図の旅』(大沼一雄著、東洋選書)では、東北から沖縄まで全国二十九カ所について、国土地理院発行の二万五千分の一地形図の、明治から平成の時代に至るまでの何枚かの地図を時系列にたどることで、町の変貌と歴史の断層面を読み取っていく。

その中には、東京西部の市も含まれており、大正・昭和・平成の三時代にわたって掲載されている地図には、学生時代に口ずさんでいた松任谷由実の『中央フリーウェイ』に登場する東京中央競馬場やサントリーのビール工場なども含まれている。思わず、二万五千分の一地形図に見入ってしまった。

実は、筆者自身も、自分が生まれる前の昭和

二十年代と、自身の幼少期と思春期に当たる昭和三十年代・四十年代の航空写真や住宅地図などを見比べて、郷里の町並みの変遷をたどりながら自分史の再確認を行う作業を秘かに楽しんでいるため、著者の記述には一つひとつ深くうなずきながら、時空を超える旅を楽しんだ。

その過程で、三十八万平方キロという小さな日本国の表面」を四千三百四十二面に区切って製作された国土地理院の二万五千分の一地形図が、物理的・空間的な移動を伴う旅だけでなく、歴史的・時間的な旅への「起爆剤」でもあることを思い知らされた。

何十年という間隔を置いた地形図を何枚か並べて見比べることで、非常に深遠な、時空を超える旅が楽しめるのである。

本書で言及されている稲城市や多摩市、府中市、日野市などは、多摩川沿いに発展してきたエリアであり、地形図を時系列にたどることで浮かび上がってくる流域の変化は、鮮やかに地域の歴史を浮き彫りにして見せる。この地域への歴史的関心がにわかに高まり、多摩川を車窓から眺めて通勤する者として新たな視点も獲得させてもらうことができた。

著者が提唱する「観光地にとられず、地図とともに歩き、健康に満ち溢れた、費用のかからない」旅は、地域の外から訪れる旅行者だけでなく、地域を知る人々にとっても魅力的なものであるに違いない。

(挑全)